

# 映画分類基準

映画倫理委員会

2009年4月23日制定

1 映画倫理委員会は、「映画倫理綱領」「映画の区分と審査方針」に基づき、本「映画分類基準」を定める。審査に際しては、以下の3点に配慮する。

- (1) 保護者が年少者の観覧には「早すぎる」「注意が必要」「問題がある」と懸念する描写や表現。
- (2) 特定の個人や集団が、不快、侮辱、嫌悪感あるいは差別感を受ける恐れのある表現。
- (3) 映画表現に係る法令、判例に関し配慮を要する事柄。

2 個々の作品の審査に際しては、以下の8項目を審査上の重点とする。

- (1) 主題と題材
- (2) 言語表現
- (3) 性表現
- (4) ヌード
- (5) 暴力・残酷表現
- (6) 恐怖・脅威
- (7) 麻薬・薬物
- (8) 犯罪・非行

3 映画を年齢層別に「G」「PG12」「R15+」「R18+」の4区分に分類する。

「G」は入場制限が無い。

「PG12」は親や保護者の助言・指導があれば12歳未満でも観覧できる。

「R15+」は15歳未満の観覧を禁止する「制限区分」である。

「R18+」は18歳未満の観覧を禁止する「制限区分」である。

「制限区分」は年齢による制限であり、おおむね、学校制度に対応している。

4 各区分における8項目の表現と範囲を定める映画分類基準は、以下のとおりである。



## 年齢にかかわらず誰でも観覧できる

G : General Audience (すべての観客) の略号

この区分の映画の主題又は題材とその取り扱い方は、小学生以下の年少者が観覧しても動揺やショックを受けることがないように、慎重に抑制されている。簡潔な性・暴力・麻薬や犯罪などの描写が多少含まれるが、ストーリー展開上で必要な描写に限られ、全体的には穏やかな作品である。G区分の作品には、より大人向けの作品もある。一方、幼児、小学生が観覧の主体となる作品では、より慎重な描写、表現がなされている。

**主 題 :** 家庭や社会の問題を扱う主題は、年少者にとっても受け入れられ、倫理的にも適切で慎重な表現がされている。

**言 語 :** 非難・中傷、下品な言葉などが多少あっても、日常一般的に使用されている程度で、差別的、人権侵害的、性的用語は極力避けられている。

**性表現 :** 愛情や合意による大人の性愛表現は、着衣であっても自然で簡潔な、穏やかな描写になっている。性的暴力は、ストーリー展開上必要であっても暗示程度に限る。

**ヌード :** 自然で簡潔なヌードはみられるが、性的な文脈では特に慎重に抑制された描写に限る。なお死体の描写は人間の尊厳を傷つけない慎重な表現がされている。

**暴 力 :** 喧嘩、抗争や破壊行為が描かれる場合、暴力は日常的な問題解決の手段として強調されていない。戦争、組織犯罪、歴史劇、時代劇などの集団的な暴力の場面では、殺傷、流血及び死体などの描写は慎重に抑制されている。年少者が容易に模倣可能で危険な遊戯は慎重に表現されている。

**恐 怖 :** 恐怖の場面は、年少者にとって不安や動揺が少なく、長く詳細、かつリアルな描写は避けられ、結末で安心できるように作られている。迷信、占い、心霊術や催眠術を扱う場合にも注意が払われている。

**麻 薬 :** 簡潔な台詞による言及や事件の背景説明として麻薬取引が描かれることもあるが、麻薬、シンナーなどの注射・吸引は明示されていない。年少者が係る場面では、特に注意深く配慮されている。

**犯 罪 :** ストーリー展開上必要な、犯罪や事件の簡潔な描写はある。しかし、年少者や社会的弱者が、凶悪な犯罪の犠牲者又は加害者となる設定では、慎重な配慮がされている。未成年者の飲酒・喫煙は避けられ、いじめや、非行・不良行為は肯定されていない。年少者にとって身近な場所・状況で起る犯罪や事件、および自殺、心中、自傷行為、解剖、手術などの描写にも、充分注意が払われている。



12歳未満の年少者の観覧には、親又は保護者の助言・指導が必要  
PG : Parental Guidance (親の指導・助言) の略号

この区分の映画で表現される主題又は題材とその取り扱い方は刺激的で、小学生の観覧には不適切な内容も一部含まれている。一般的に幼児・小学校低学年の観覧には不向きで、高学年の場合でも成長過程、知識、成熟度には個人差がみられることから、親又は保護者の助言・指導に期待する区分である。

主 題： 年少者には理解しにくい大人の社会の現実的な問題も扱われるが、慎重な表現がされている。

言 語： ストーリー展開上、ときには差別的、人権侵害的、性的用語の使われることもあるが、慎重な表現による。言語による攻撃、脅迫には注意が払われている。

性表現： 簡潔な性愛は表現されている。文脈により性的暴力の描写もあるが、慎重に抑制されている。年少者の面前での性描写、性的用語の併用、セクシュアル・ハラスメントの行為などは慎重な表現に限られる。

ヌード： 自然で簡潔な単体ヘア・ヌードのロング・ショットが含まれることもあるが、全裸の正面撮りや性器の描写は含まれていない。性を主題とする文脈ではより慎重な表現がなされている。

暴 力： 多少の流血を伴う殺傷がみられるが、身体一部の損壊、苦悶・苦痛の描写は抑制されている。顔面、頭部、心臓への攻撃も抑制されている。年少者、社会的弱者、動物に対する暴力は、文脈により認められないこともある。長く詳細なものは除かれている。

恐 怖： 鮮血やグロテスクな映像を含む恐怖表現がみられるが、犠牲者の苦痛、苦悶の描写は抑制されている。モンスターなどへの攻撃は描かれているが、人間、特に年少者への攻撃は長く詳細なものは除かれている。

麻 薬： 麻薬・覚せい剤などの注射・吸引、毒物の使用は、ストーリー展開上の必要最低限に抑制されている。年少者の興味を助長する表現は避けられている。

犯 罪： 窃盗・万引き、刃物・携帯電話・パソコンの犯罪利用、催眠・洗脳などが描かれるが、年少者の非行・不良行為の詳細な描写は避けられている。殺人・死体遺棄及び年少者、社会的弱者への暴行・虐待などは、慎重に抑制されている。



## 15 歳以上（15 歳未満は観覧禁止）

R : Restricted（観覧制限）の略号

この区分の映画は、主題や題材の描写の刺激が強く、15 歳未満の年少者には理解力や判断力の面で不向きな内容が含まれている。従って 15 歳以上の観客を対象とし、15 歳未満は観覧禁止とする。

**主 題：** 人間の欲望や深刻な社会問題が、リアル、かつ刺激的に表現されている。性、暴力、犯罪などとの多重表現のある場合や、著しく反倫理的な事項は、慎重に表現されている。

**言 語：** 差別的・人権侵害的な用語や、性器の名称、その状態を表す言葉もときには使われる。しかし、その場合、言語自体の強さ、歴史的背景と描き方が適切か否かが問われる。特定の個人、集団、施設に対する侮辱的、攻撃的な表現は慎重に扱われている。

**性表現：** フルヌードによる性愛表現はみられるが、体位、性的会話、エクスタシー表現、詳細さ、長さ、回数などは抑制されている。未成年者、性的少数者、社会的弱者に係る性行為、また性的暴力や性犯罪などは慎重に抑制されている。SM遊戯やフェティシズム、近親相姦などの性的倒錯は、より慎重に抑制されている。

**ヌード：** 自然で簡潔なフルヌードが描写されていることもあり、全裸の正面撮りのロング・ショットも稀に見られる。  
\* 自然な出産場面は、慎重に表現されている。

**暴 力：** 出血飛散を伴う致命的な肉体損壊など、かなり刺激の強い暴力描写がある。しかし、その現実感、残酷感は最低限度にとどめられている。銃砲・刀剣などの兇器で直接肉体を破壊する場面では、執拗、詳細な描写は避けられている。拷問、虐待、私刑、処刑、無差別大量殺人、猟奇的連続殺人などの描写は、抑制的に扱われている。

**恐 怖：** 架空の超自然物、人間・動物の出血飛散、肉体損壊、苦悶を伴う恐怖が描かれる場合は、抑制された描写による。年少者への残酷な攻撃は描かれていない。

**麻 薬：** 麻薬の服用に伴う陶酔感や妄想、禁断症状の描写もあるが、長く詳細ではない。薬品名や致死量なども詳細には描かれていない。兇悪な犯罪や性行為との加重表現はない。

**犯 罪：** 殺人、放火、強姦などの兇悪犯罪や、誘拐、拉致、監禁、痴漢、援助交際、売春・買春、人身売買など様々な犯罪や無差別テロなど社会的な事件も描かれている。しかし、それは慎重な表現によるものである。非合法的な手術、堕胎、危険な薬物実験などの描写は充分抑制されている。



## 18 歳以上（18 歳未満は観覧禁止）

R : Restricted（観覧制限）の略号

この区分の映画は18歳以上の観覧に適する。主題又は題材とその取り扱いは極めて刺激が強く、このため18歳未満は観覧禁止とする。

**主 題：** 人間の欲望や反倫理的な心情や行動が、現実感を伴って著しく刺激的に表現されている。文脈上の必然性があれば、快楽殺人、近親相姦、人肉愛嗜、児童性愛などの、きわだって反社会的、反倫理的な主題も描かれる。主題又は題材自体の問題性が高まるにつれ、慎重に抑制された仕方でも描写、表現されており、作品全体としてそれらへの興味をいたずらに助長したり、賛美・肯定されていない。

**言 語：** 文脈上の必要性がある場合を除き、きわめて問題性の高い差別語は用いられていない。性的用語も乱用されてはならず、作品全体として、差別や人権侵害を助長・肯定しない。

**性表現：** 全裸フルショットによる割り込み体位、激しい体動、性器愛撫・挿入、口唇性愛や射精などを擬似により強く連想させ、著しく刺激的な性愛行為の描写がみられる。グループ・セックス、性器具・拘束器具の使用もある。ただし、文脈上必要であっても、以下の場面では一段と抑制された表現による。

- (1) 未成年者、性的少数者や社会的弱者に係わる性行為、性的攻撃。
- (2) 強姦、輪姦、陵辱、性的拷問や緊縛責めなどの性的暴力。
- (3) SM、近親相姦、児童性愛、獣姦や屍姦などの著しい性的倒錯。

**ヌード：** 自然なヌードはしばしばみられ、ときには簡潔な全裸正面撮りロング・ショットも含まれる。ただし、性器、ヘアの誇示・強調はされない。性行為、性的暴力、拷問・虐待、麻薬服用、性犯罪、生理、放尿、排泄などに係わる性器・肛門・ヘアの描写はない。

\*撮影時に18歳未満の出演者による性的ヌードは除かれている。

**暴 力：** 現実感、残酷感のある、著しく刺激的な、鮮血飛散を伴う肉体損壊・破壊の描写もみられる。文脈上の必然性が重要である。作品全体として暴力否定の精神を欠き、ことさら暴力・残酷のみを強調する表現はない。下記の場面では、一段と抑制された表現による。

- (1) 年少者や社会的弱者、動物に対する暴力や攻撃。
- (2) 犠牲者への同情を欠き、暴力をもって快楽とする残酷・残忍な描写、特に拷問、猟奇的な人体・死体の解体、臓器摘出など。
- (3) 性行為、麻薬の服用、兇悪な犯罪や差別偏見などとの加重表現。
- (4) 快楽殺人、人肉愛嗜、サディズムなどの性的倒錯としての暴力。

恐 怖： 苦悶、暴力を伴うリアルな恐怖や、攻撃者による脅威・強迫もあるが、鮮血の祝祭、悪魔の儀式や猟奇的殺人などでの、際立って残虐かつ非人道的な描写はない。

麻 薬： 麻薬服用による陶酔感、幻覚症状や禁断症状に伴う暴力、犯罪、性行為も含まれるが、性的暴力、性的倒錯、兇悪な犯罪などとの多重表現は抑制されている。作品全体として薬物乱用を助長、肯定又は賛美する表現はない。

犯 罪： 凶悪な犯罪や事件、悲劇的な事故も詳細に描かれるが、実社会での犯行に結びつく恐れがあるほどにリアルな表現や、悲惨な事故、残忍な事件、拷問・処刑などのみを描いた作品は除かれている。作品として、犯罪と犯罪者をことさら賛美・肯定する表現はない。

なお、R18+の基準を超える著しく過激な描写・表現のある映画は R18+の範囲外であり、映画館等の公共の場での観覧には不適切とみなし、区分は与えられない。

#### 4 附記

本「映画分類基準」は、社会状況の変化に応じて、見直すことができる。